



▲工学部2号館屋上に設置されたソーラーアーチ



▲工学部1号館バルコニーに設置するソーラシェルフ

## ソーラーアーチ

既存建築物の屋上空間を有効に活用するソーラーエレメント。

一般的に結晶型のソーラーを屋上に設置する場合、架台基礎工事とそれに伴う防水改修工事が発生するが、フィルム型ソーラーを使用するこのソーラーアーチはパラペットに装着することにより、屋上や建築本体への負荷を軽減することができる。

この実証により、耐久性等の点を検証し、コスト低減や、安定性等実用性を確認する。

設置場所：工学部2号館屋上

発電量：5.5kw（想定）

検証内容：発電効率

施工性・耐久性・コスト

（既存陸屋根基礎設置方式との比較）

## ソーラーシェルフ

既存ビルファサードを有効に活用するソーラーエレメント。

既存建築物である工学部1号館5階製図室バルコニーの庇間に9基取り付け、外壁空間の有効活用をはかる。

シェルフは3基1セットで構成され、それぞれに2軸追尾型（センサー付）、2軸追尾型（軌道固定）、固定型という異なる追尾性能を与えている。

発電効率を検証するとともに、耐久性等の確認、コスト低減や、安定性等実用性を確認する。

設置場所：工学部1号館5階バルコニー

発電量：0.54kw（想定）

検証内容：発電効率

施工性・耐久性・コスト

